

なかがわうんが

中川運河

中部地方の 選奨土木遺産

令和2年度登録

所在地：愛知県名古屋市 竣工年：1932（昭和7）年

管理者：名古屋港管理組合

認定理由：中川運河は、名古屋の工業地で港湾と鉄道を連絡する主要動線を確保するため都市計画事業で建設され、経済発展を支えた重要な土木遺産である。

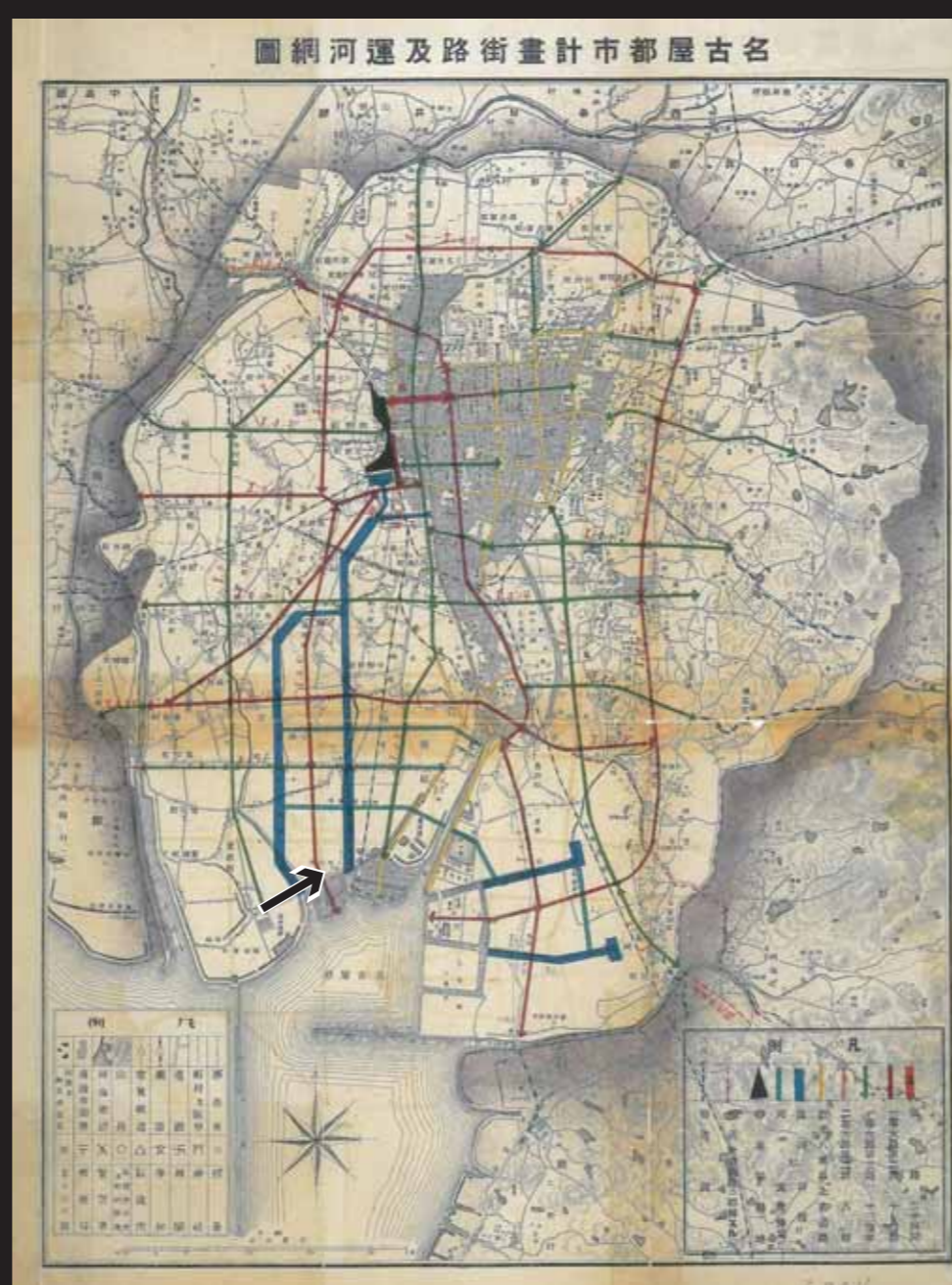


名古屋港から中川運河を望む。港付近、2つ目の橋部分に中川口閘門が見える。奥には名古屋駅の高層ビル街。（提供：名古屋港管理組合）

中川運河は、名古屋港と旧国鉄笹島貨物駅とを結ぶ運河で、工業都市としての発展を図るために名古屋市が開削し、1930（昭和5）年に幹線及び北支線が、1932（昭和7）年に東支線を含む全線が開通した。小碓・南郊運河、荒子川・港北運河などの横堀は、水運の減少に伴って一部が埋め立てられ、現在、埋立地の一部は南郊公園など緑地として残っている。

中川運河の開削事業が具体化したのは、1901（明治34）年に沿線の関係地主が計画を立てたのが始まりであり、その後、実業家雨宮敬次郎や松井茂愛知県知事が事業として実施しようとしたものの、財政上の理由等で実現に至らなかった。1919（大正8）年の都市計画法公布の後に、1924（大正13）年6月9日に街路及び運河網の一環として都市計画決定され、1926（大正15）年10月1日に着工した。

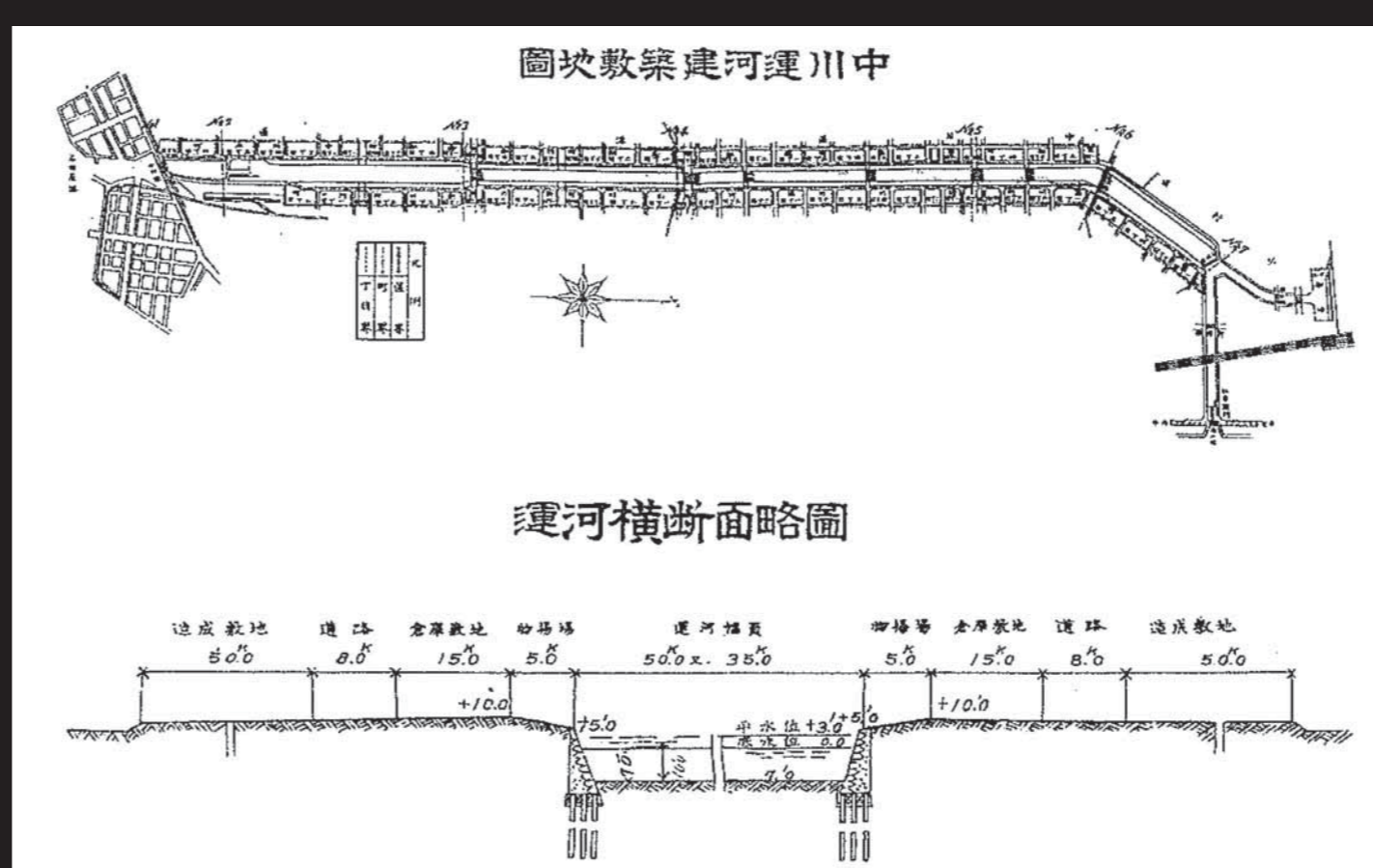
この運河計画は、工場地における原料、諸材料の供給、生産品の搬出等ための港湾及び鉄道との連絡を主とし、商工業地相互の内部的連絡を従とするものであった。この運河網計画の中で、中川運河が市区改正事業を除き他の都市計画施設をさしおいて最初に都市計画事業として採用されたことは、名古屋市にとってこの事業がいかに重要であり、渴望されていたことがうかがえる。



松重閘門（上）と中川口閘門（下）

中川運河には、河口で名古屋港に面する中川口閘門と、堀川と連絡する松重閘門の2門が備えられ、船舶の通航を迅速かつ安全にする環境が整えられている。

名古屋都市計画街路及運河網
中川運河は大正13年6月9日に街路及び運河網の一環として都市計画決定された。（名古屋都市センター）



▲ 中川運河建設時の平面図および横断面図（名古屋市都市計画史、平成11年）

